

Ⅱ 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

問6 鳥取県の施策等について、あなたの満足度をお聞きますので、それぞれ5段階で評価をお願いします。(1～5のいずれかの数字に○をしてください。)

※「5」は満足、「1」は不満

問 6-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度

～「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」の満足度が高い～

「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が 38.6%と最も割合が高く、次いで「文化・アートのまちづくりの取組」が 29.5%、「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が 28.3%と続いている。

前回調査と比較してみると、「文化・アートのまちづくりの取組」の満足度が 6.0 ポイント、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が 2.1 ポイント、「スポーツ活動の振興や交流を拡げる取組」が 2.0 ポイント増加している。

図13 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度 (n=1,596)

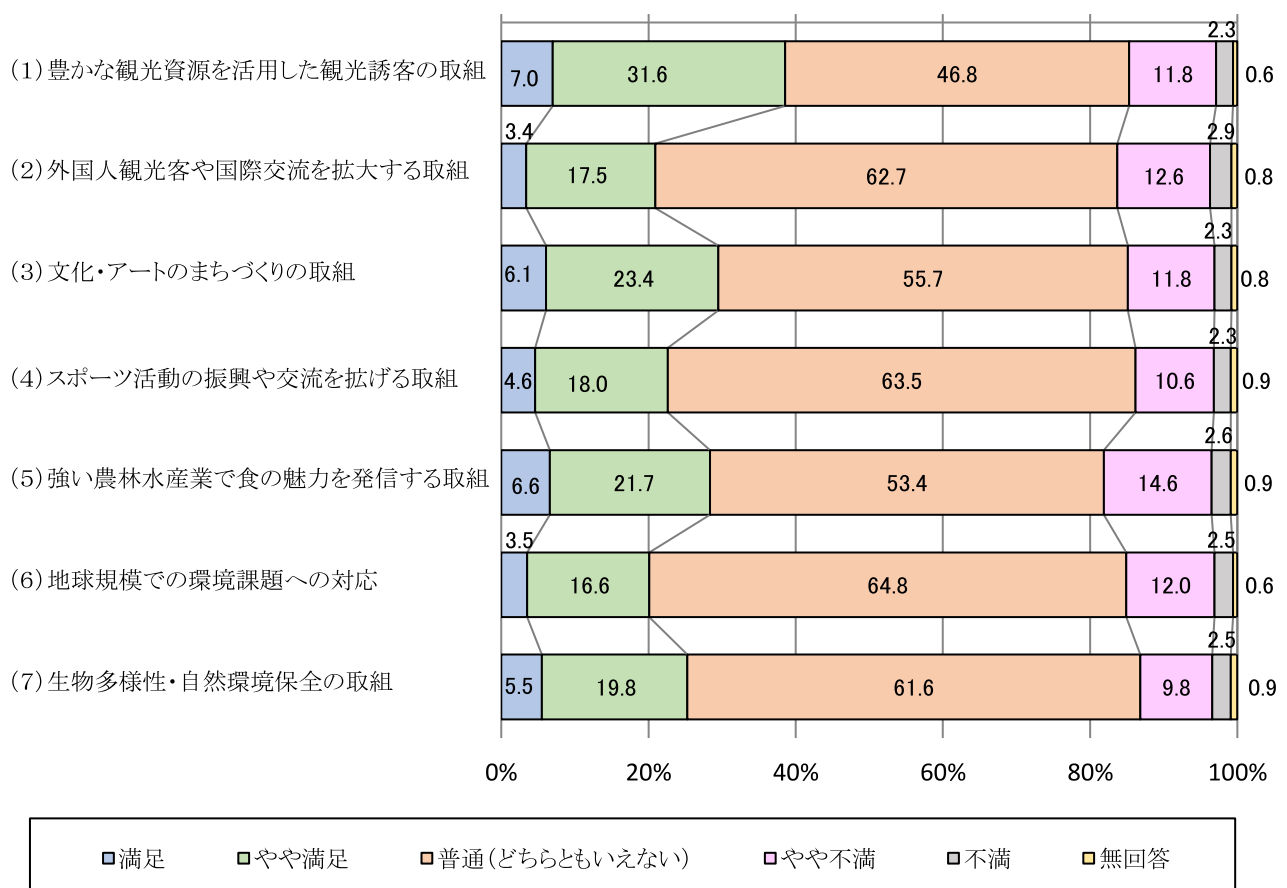
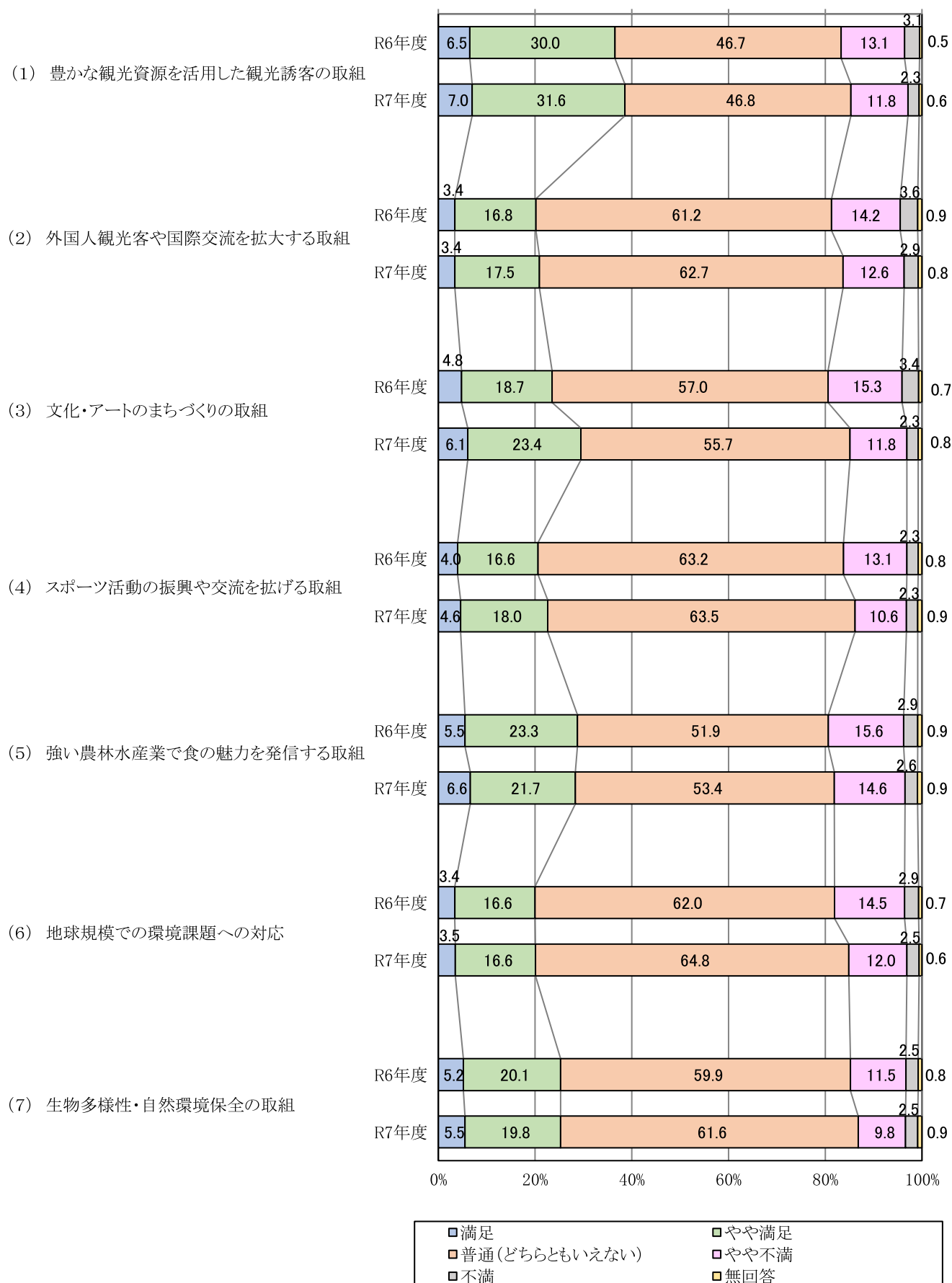


図 14 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度(年次比較)



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

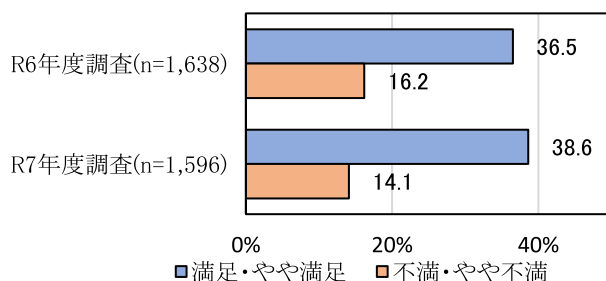
(3) 文化・アートのまちづくりの取組	【+6.0】
(1) 豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組	【+2.1】
(4) スポーツ活動の振興や交流を拡げる取組	【+2.0】
(2) 外国人観光客や国際交流を拡大する取組	【+0.7】
(6) 地球規模での環境課題への対応	【+0.1】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

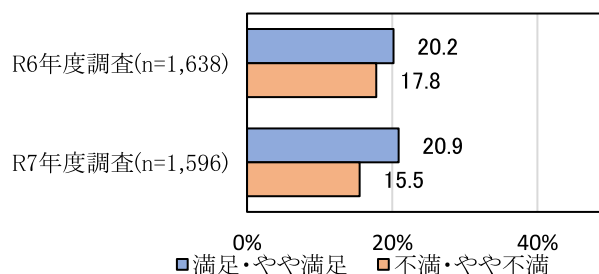
前年度より上がった項目は無し

●満足度・不満足度の比較

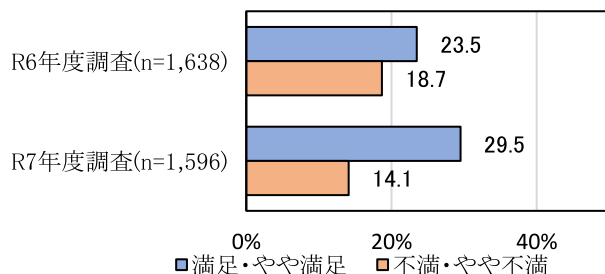
(1) 豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組



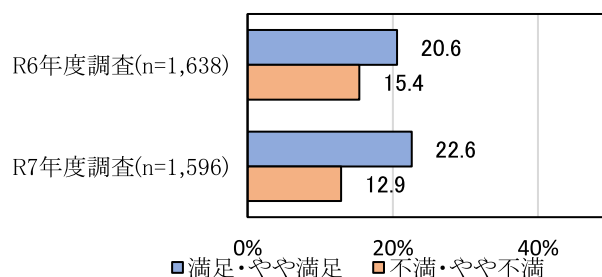
(2) 外国人観光客や国際交流を拡大する取組



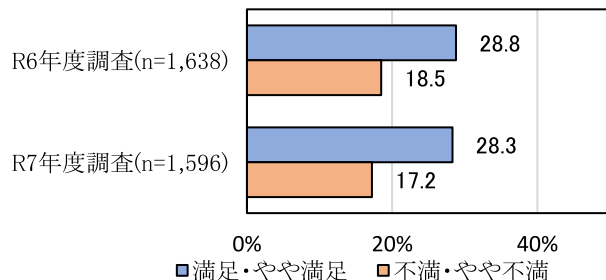
(3) 文化・アートのまちづくりの取組



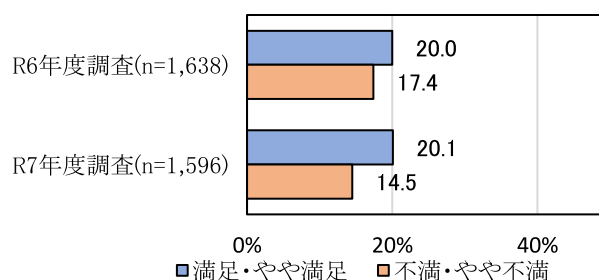
(4) スポーツ活動の振興や交流を拡げる取組



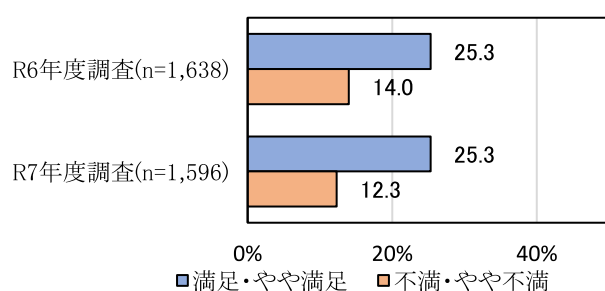
(5) 強い農林水産業で食の魅力を発信する取組



(6) 地球規模での環境課題への対応



(7) 生物多様性・自然環境保全の取組



問 6-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」の施策等のうち、あなたが今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が64.3%と最も高く、次いで「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」が62.4%、「生物多様性・自然環境保全の取組」が45.7%と続いている。

前回調査と比較してみると、「スポーツ活動の振興や交流を拓げる取組」「生物多様性・自然環境保全の取組」が約3ポイント増加している。

年代別でみると、「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「外国人観光客や国際交流を拡大する取組」「文化・アートのもちづくりの取組」は20歳代で高く、「地球規模での環境課題への対応」「生物多様性・自然環境保全の取組」は60歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」は男性の30歳代、60歳代以上で高く、「地球規模での環境課題への対応」は女性の60歳代以上で高くなっている。

図15 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」項目のうち今後優先すべき(重要度の高い)項目 (年次比較)

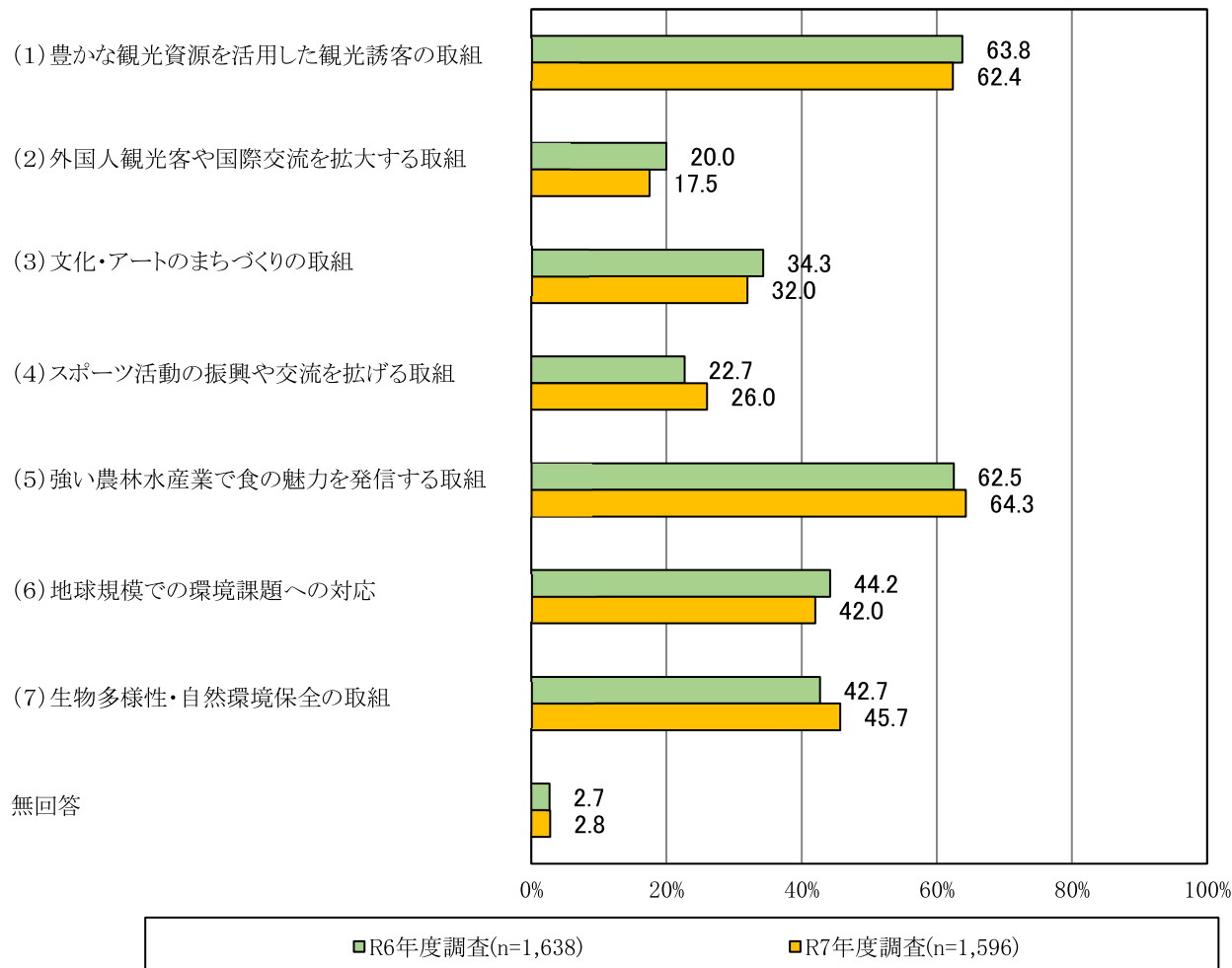
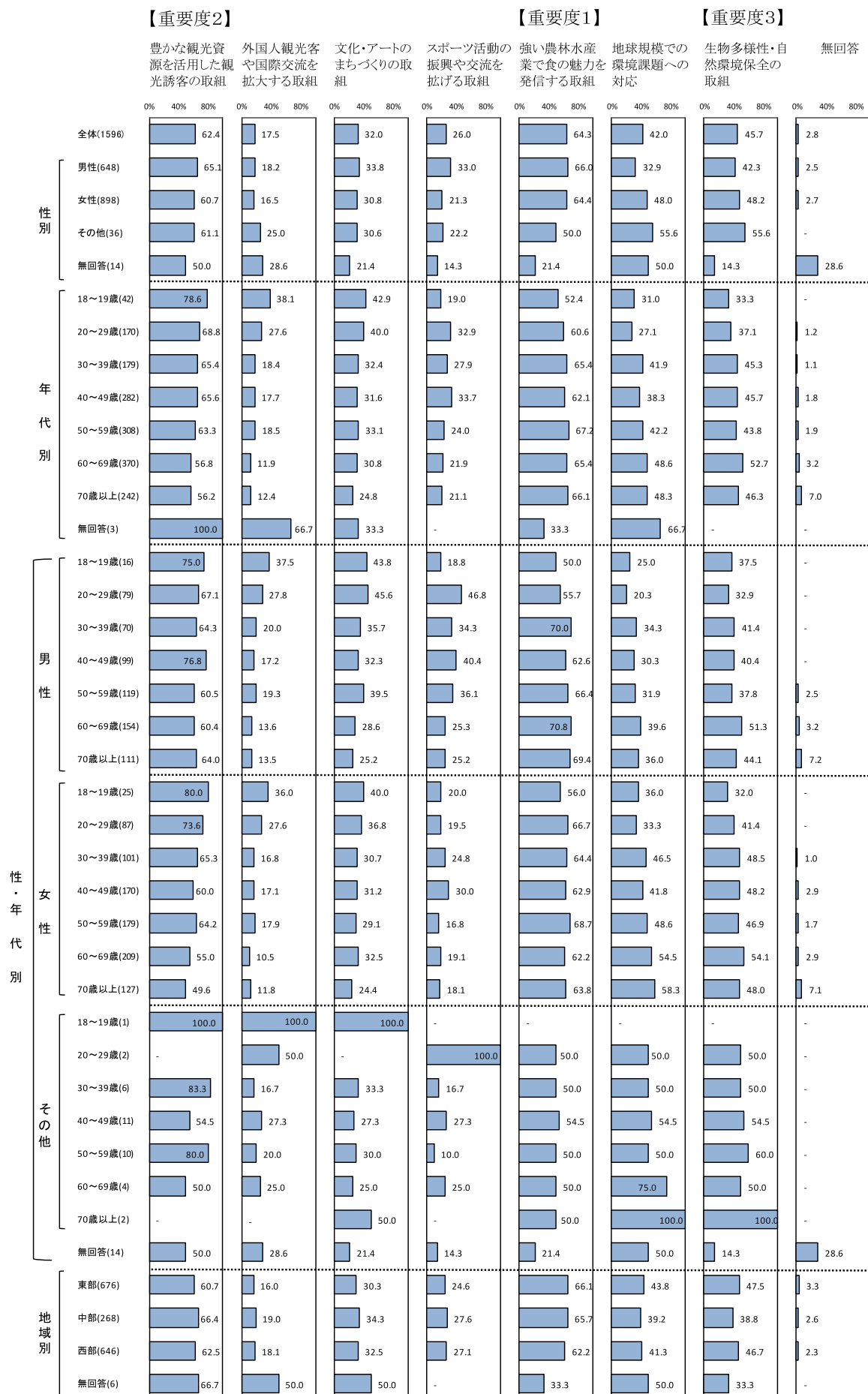


図 16 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



2 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

問 6-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度

～「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」の満足度が高い～

「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が 26.3%と最も高く、次いで「地域の健康と安心を守る取組」が 21.5%、「智をひらく豊かな学びの取組」が 17.2%となっている。

一方、不満(不満・やや不満の合計)については、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」が 39.8%と最も高く、約4割が不満を感じており、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」については約3割が不満を感じている。

前回調査と比較してみると、「誰もが尊重される共生社会の取組」の満足度が僅かに増加しており、その他の項目は横ばいとなっている。

図17 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度 (n=1,596)

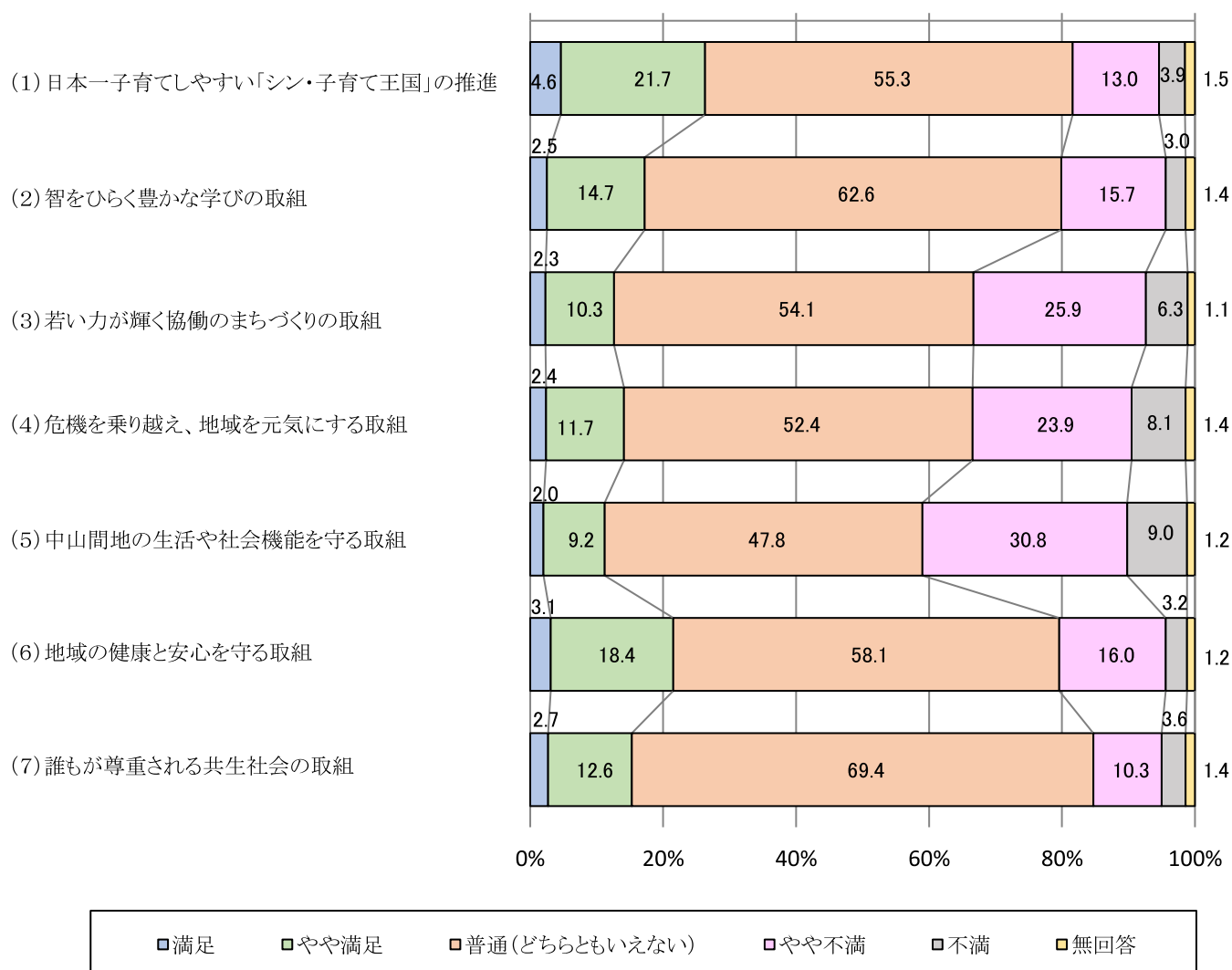
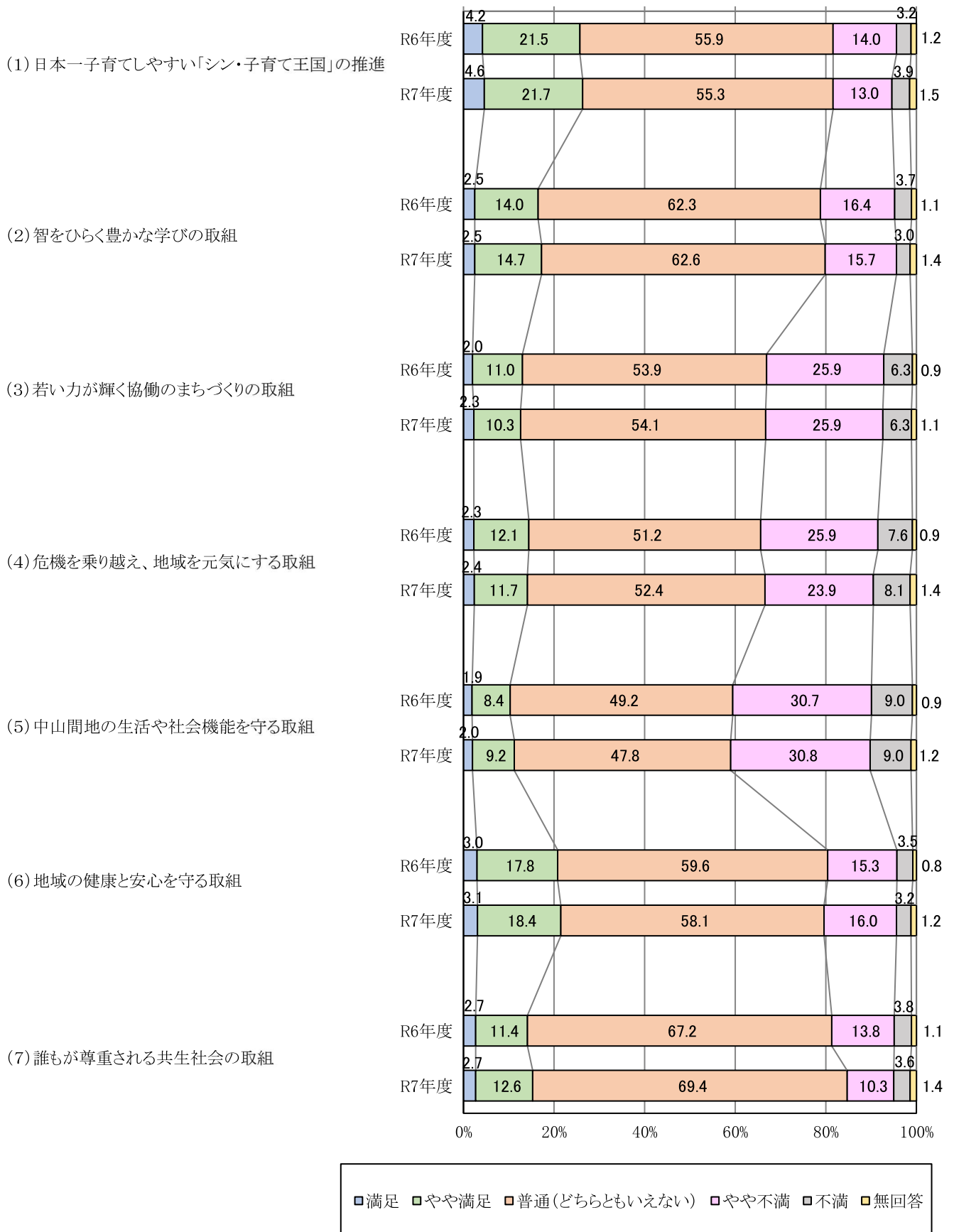


図 18 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度（年次比較）



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

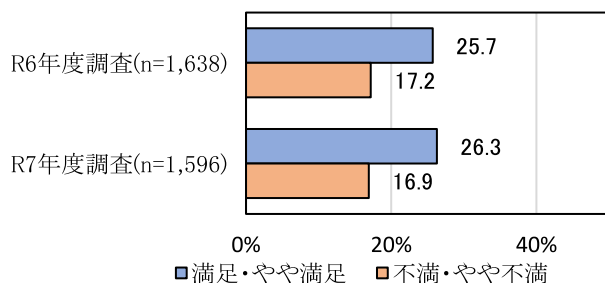
(7) 誰もが尊重される共生社会の取組	【+1.2】
(5) 中山間地の生活や社会機能を守る取組	【+0.9】
(2) 智をひらく豊かな学びの取組	【+0.7】
(6) 地域の健康と安心を守る取組	【+0.7】
(1) 日本一子育てしやすい「シン・子育て王国」の推進	【+0.6】

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

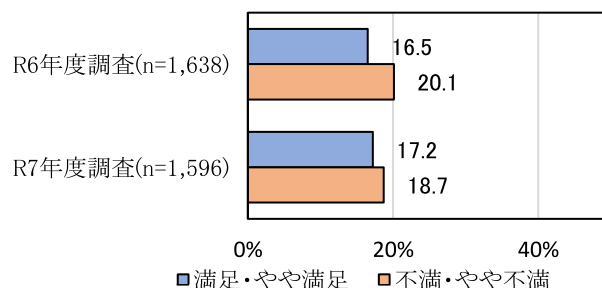
(6) 地域の健康と安心を守る取組	【+0.4】
(5) 中山間地の生活や社会機能を守る取組	【+0.1】

●満足度・不満足度の比較

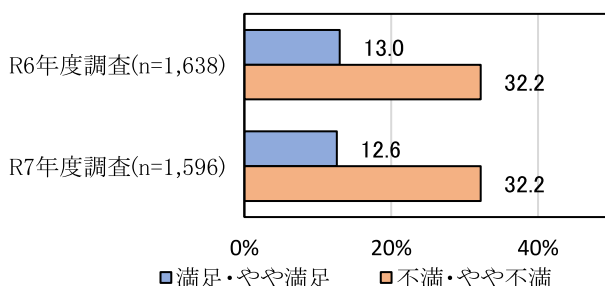
(1) 日本一子育てしやすい「シン・子育て王国」の推進



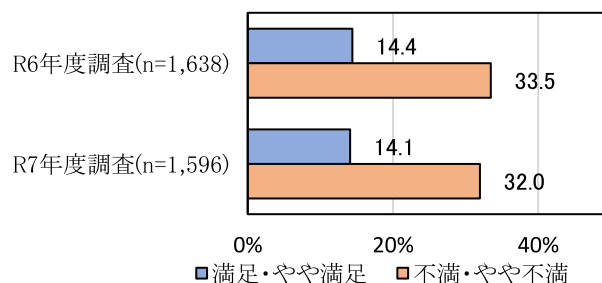
(2) 智をひらく豊かな学びの取組



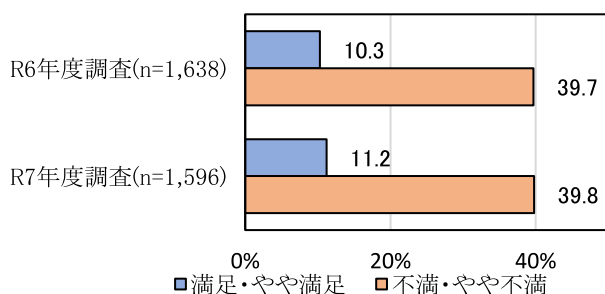
(3) 若い力が輝く協働のまちづくりの取組



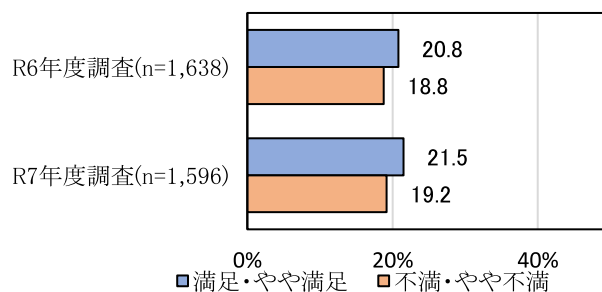
(4) 危機を乗り越え、地域を元気にする取組



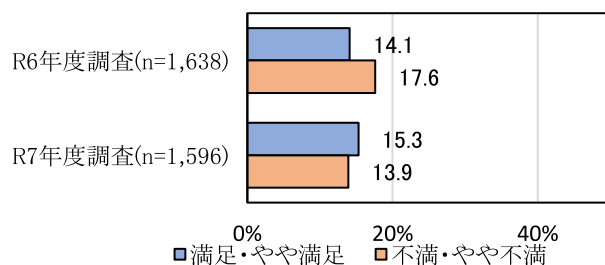
(5) 中山間地の生活や社会機能を守る取組



(6) 地域の健康と安心を守る取組



(7) 誰もが尊重される共生社会の取組



問 6-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」の施策のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「若い力が輝く協働のまちづくり」「『シン・子育て王国』の推進」が上位～

今後優先すべき重要度の高い項目は、「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」が62.0%と最も高く、次いで「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が55.1%、「地域の健康と安心を守る取組」が47.3%となっている。

前回調査と比較してみると、「智をひらく豊かな学びの取組」「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」「地域の健康と安心を守る取組」が僅かに増加している。

年代別でみると、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」は20～30歳代、「智をひらく豊かな学びの取組」は30～40歳代、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」「地域の健康と安心を守る取組」は60歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」は女性の20～30歳代、「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」は女性の30歳代、50～60歳代、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」は男性の60歳代以上で高くなっている。

図19 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」項目のうち今後優先すべき(重要度の高い)項目 (年次比較)

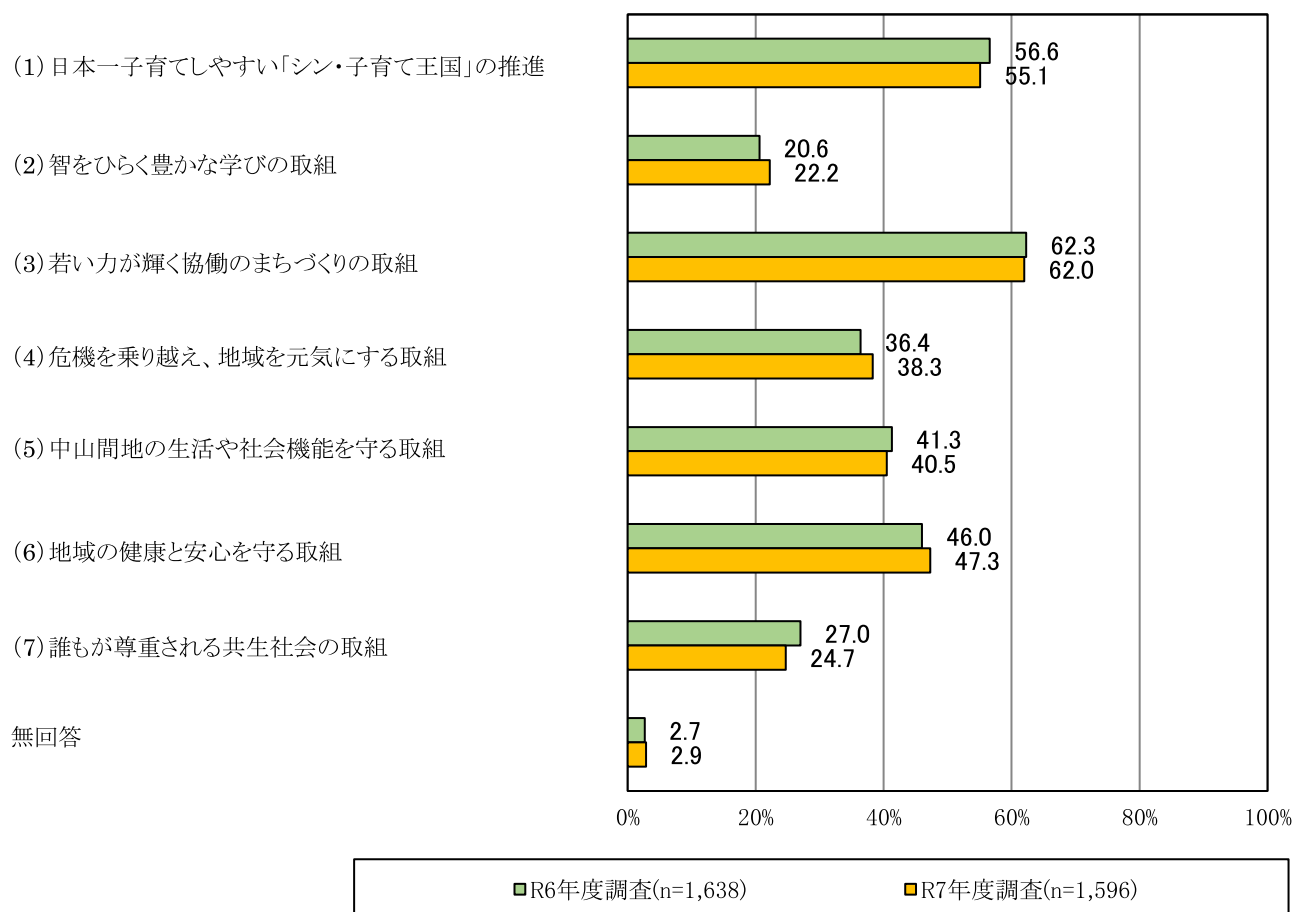
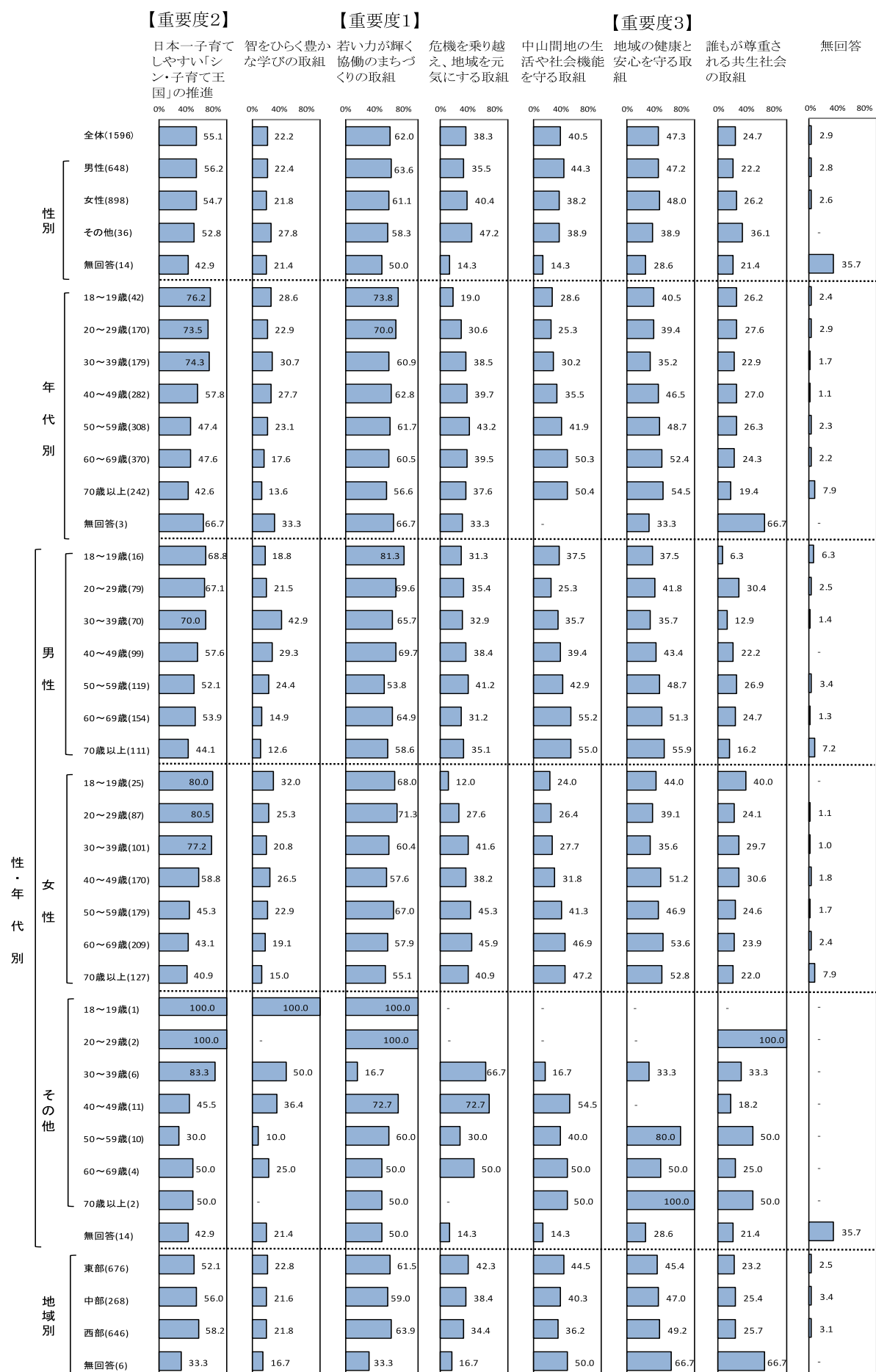


図 20 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



3 幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

問 6-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度

～「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」「防災・減災対策の強化」の満足度が高い～

「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」ための取組の満足度(満足・やや満足の計)は、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が 18.9%と最も高く、次いで「防災・減災対策の強化」が 18.4%、「移住定住の促進」が 14.0%となっている。

前回調査と比較してみると、満足度は「移住定住の促進」「防災・減災対策の強化」を除く項目で横ばいとなっており、「移住定住の促進」「防災・減災対策の強化」では2ポイント程度減少している。また、不満(不満・やや不満の計)については、「県内産業の持続的発展をめざす取組」が 2.9 ポイント増加している。

図21 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度 (n=1,596)

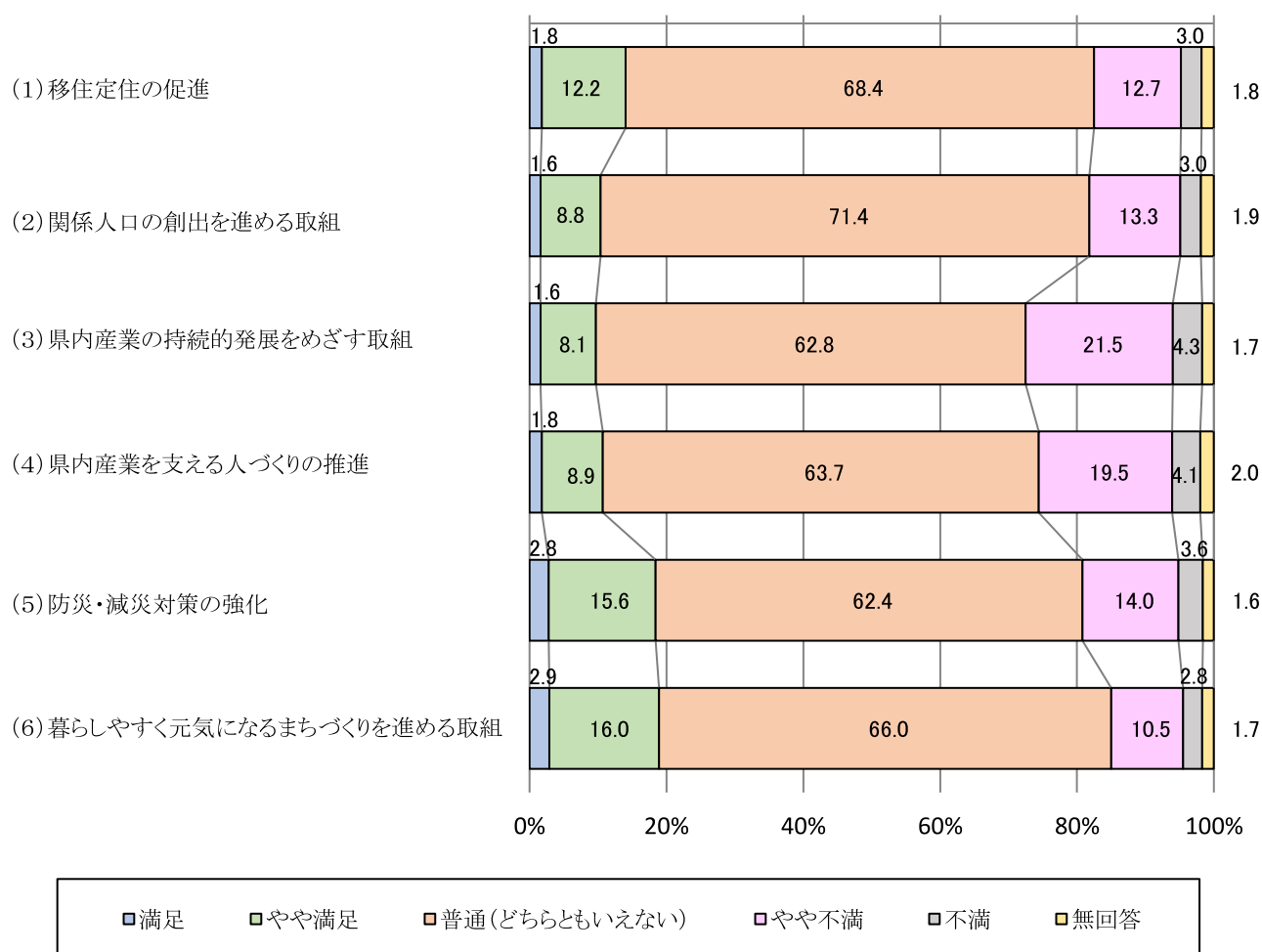
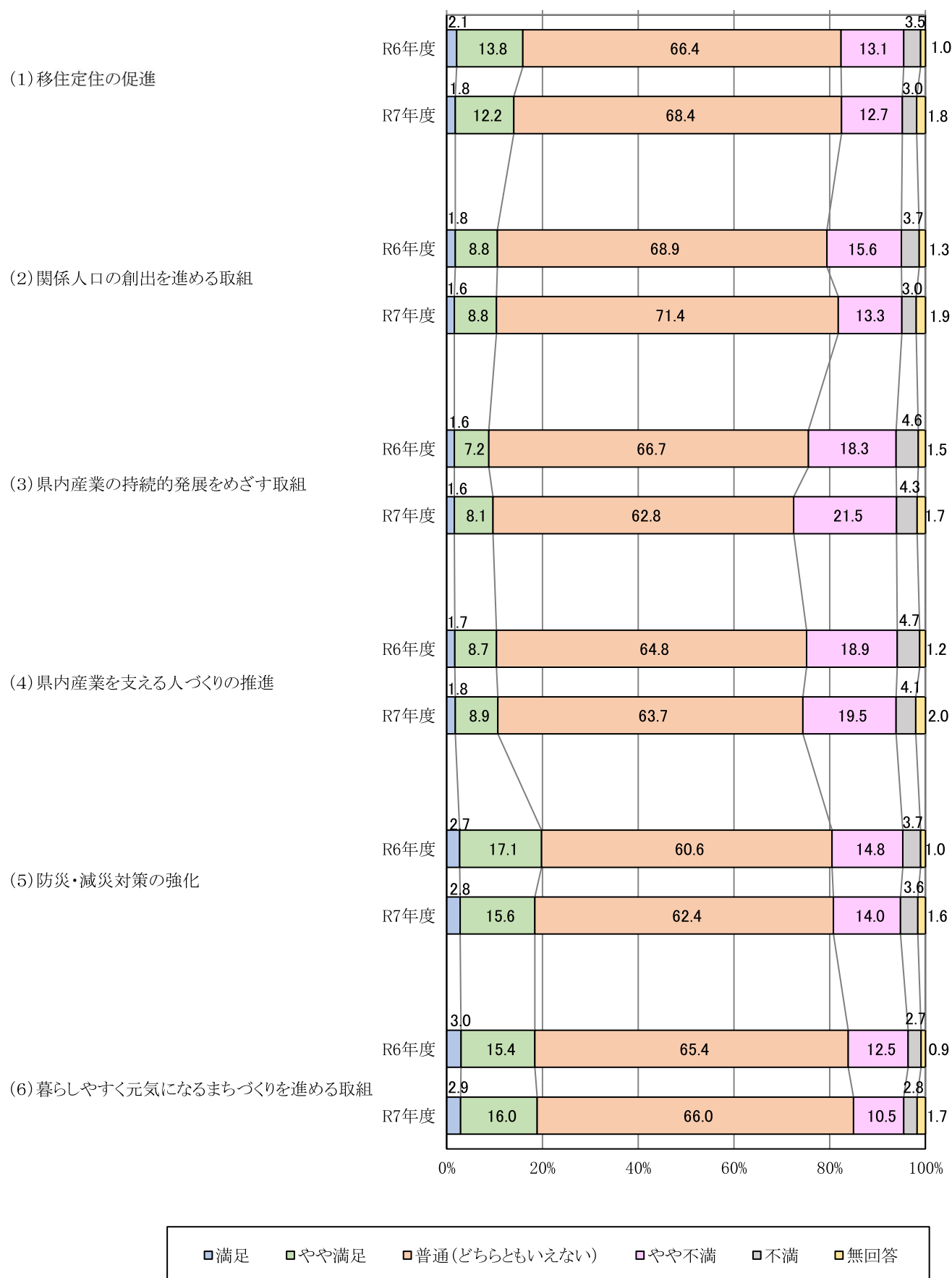


図 22 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度(年次比較)



●「満足・やや満足」のポイント数が前年度より上がった項目

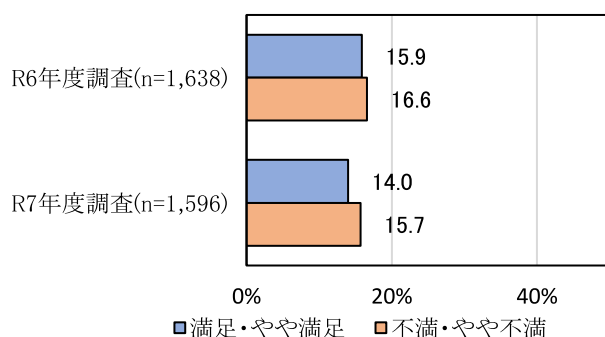
- | | |
|----------------------------|--------|
| (3) 県内産業の持続的発展をめざす取組 | 【+0.9】 |
| (6) 暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組 | 【+0.5】 |
| (4) 県内産業を支える人づくりの推進 | 【+0.3】 |

●「不満・やや不満」のポイント数が前年度より上がった項目

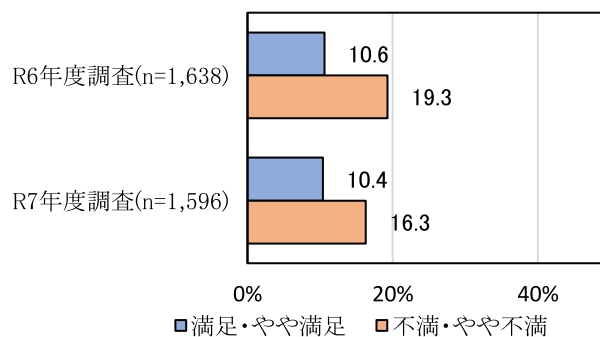
- | | |
|----------------------|--------|
| (3) 県内産業の持続的発展をめざす取組 | 【+2.9】 |
|----------------------|--------|

●満足度・不満足度の比較

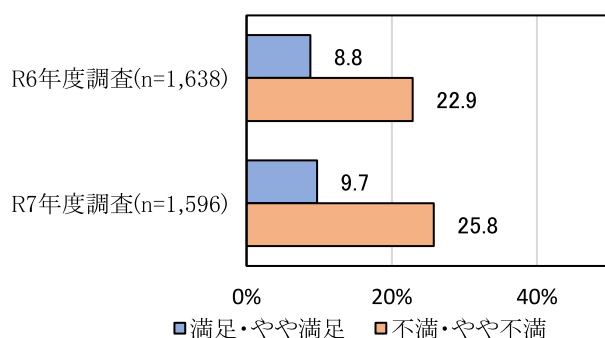
(1) 移住定住の促進



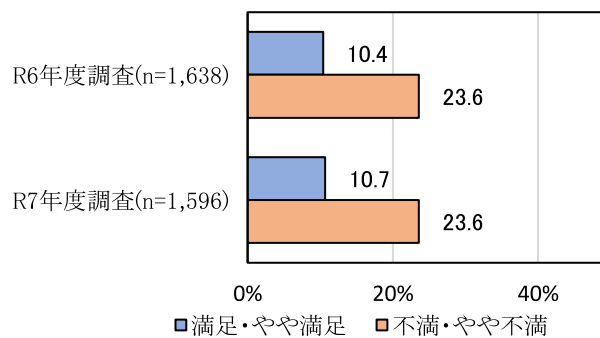
(2) 関係人口の創出を進める取組



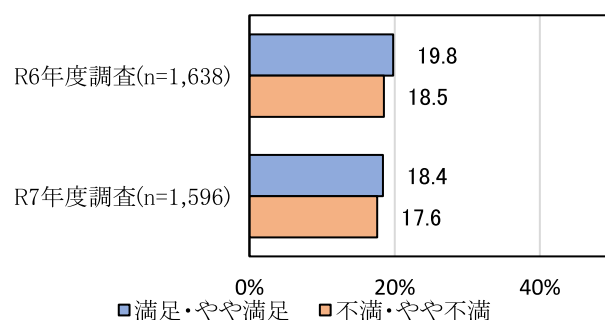
(3) 県内産業の持続的発展をめざす取組



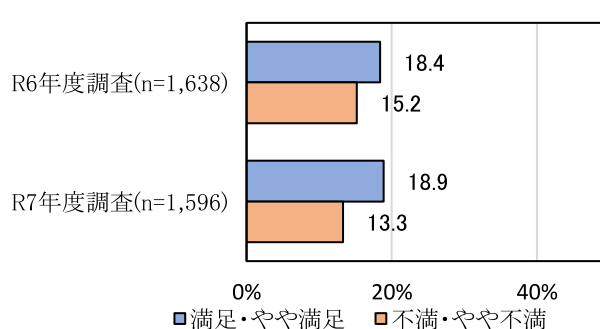
(4) 県内産業を支える人づくりの推進



(5) 防災・減災対策の強化



(6) 暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組



問 6-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」の施策等のうち、今後優先すべき(重要度が高い)と思う項目を3つお選びください。

～「県内産業の持続的発展をめざす取組」、「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」、「県内産業を支える人づくりの推進」が上位～

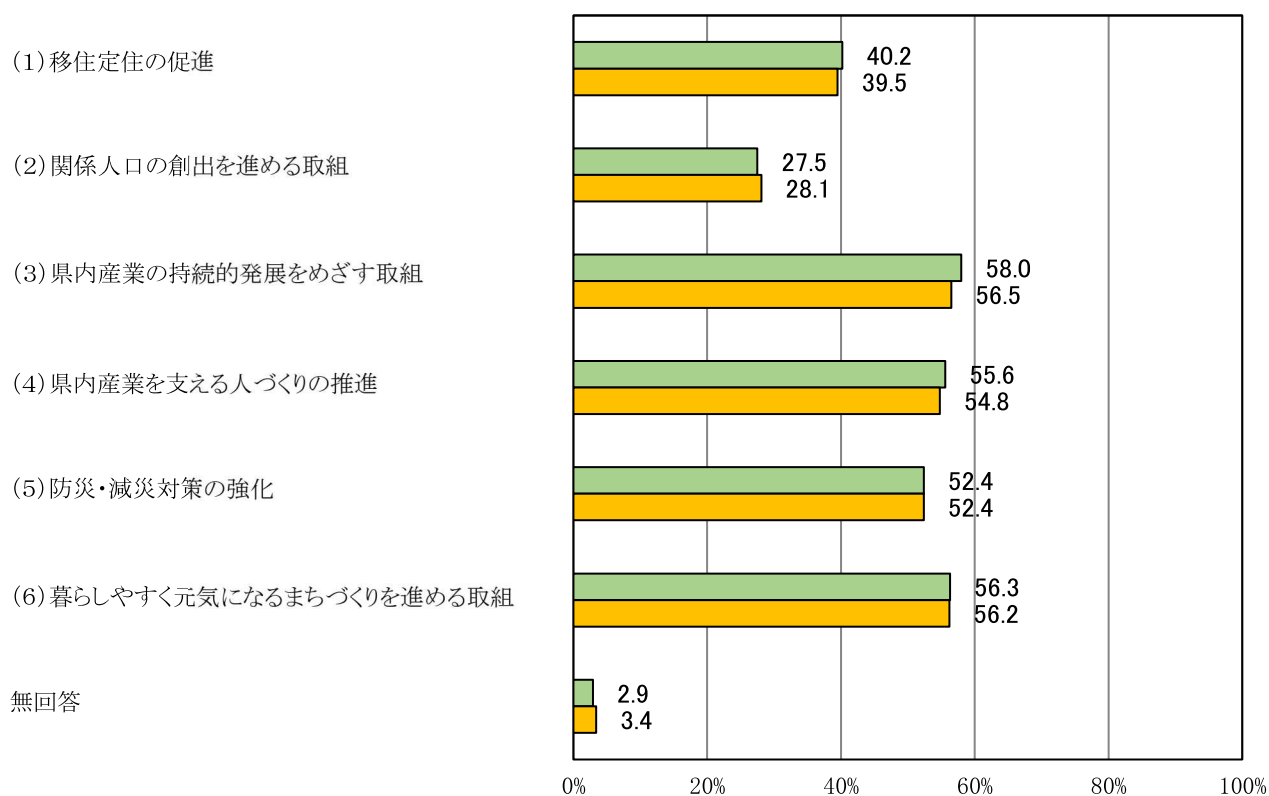
今後優先すべき重要度の高い項目は、「県内産業の持続的発展をめざす取組」が56.5%と最も高く、次いで「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」が56.2%、「県内産業を支える人づくりの推進」が54.8%となっている。

前回調査と比較してみると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」を除く項目で横ばいとなっており、「県内産業の持続的発展をめざす取組」は1.5ポイント減少している。

年代別でみると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」は 30 歳代、50 歳代で高く、「移住定住の促進」は 20 歳代が他の年代と比べて 10 ポイント程度高くなっている。

性・年代別でみると、「県内産業の持続的発展をめざす取組」は男性の 30～50 歳代で、「移住定住の促進」は男性の 30～40 歳代、女性の 20 歳代で、「防災・減災対策の強化」は女性の 40～60 歳代で高くなっている。

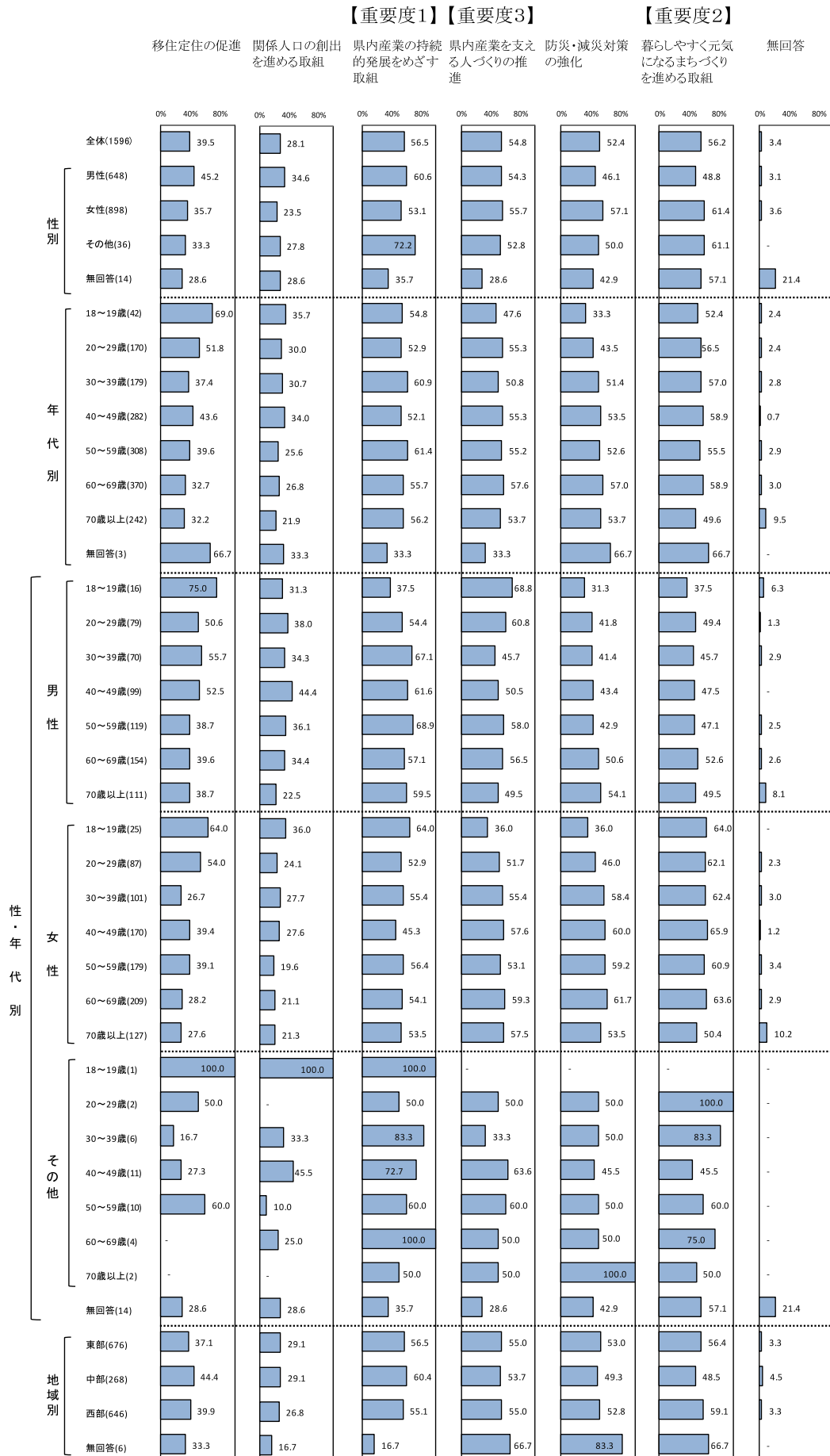
図23 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」項目のうち今後優先すべき(重要度の高い)項目 (年次比較)



■ R6年度調査(n=1,638)

■ R7年度調査(n=1,596)

図 24「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度(性別・年代別・地域別)



4 男女共同参画社会づくり

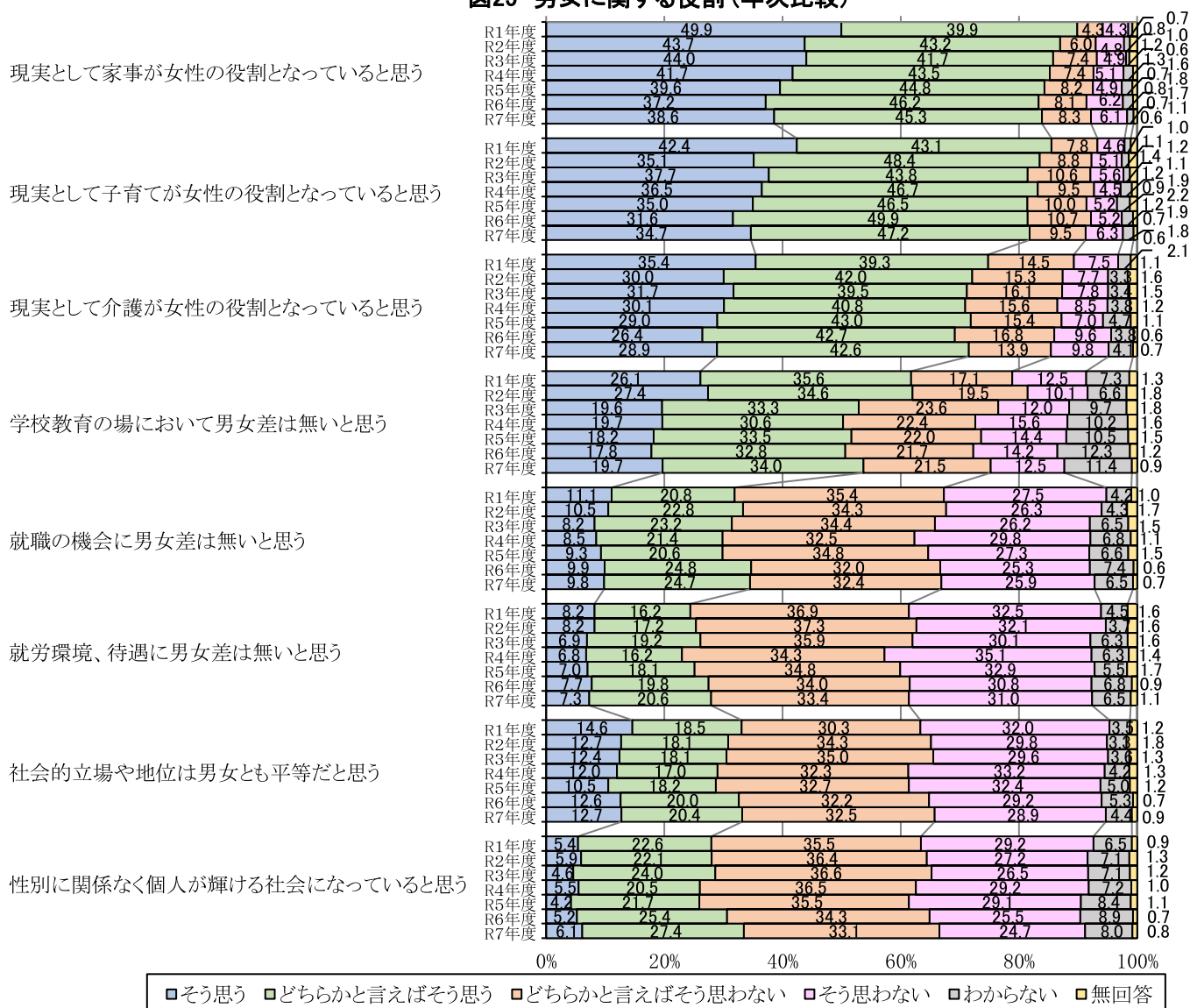
問7 男女に関する役割などについてお聞きます。次の項目(設問)についてどう思われますか。項目ごとにいずれかに○を記入してください。

～現実として「家事、子育て、介護が女性の役割となっている」と思う人が多数～

男女に関する役割などについて、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」が83.9%と最も高く、次いで「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」が81.9%、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」が71.5%となっている。

前回調査と比較してみると、「現実として介護が女性の役割となっていると思う」「学校教育の場において男女差はないと思う」「性別に関係なく個人が輝ける社会になっていると思う」は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計の割合が3ポイント程度増加している。

図25 男女に関する役割(年次比較)



問8 男性の家事・育児・介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思われますか。(〇は3つまで)

～「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が上位～

男性の家事・育児・介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が 60.4%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」が 50.4%、「性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発」が 40.5%となっている。

令和元年度～7年度を比較してみると、上位3項は常に上位を占めており、前年度からは横ばいとなっている。

性・年代別でみると、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」は男性の 60 歳代、女性の 20 歳代、40 歳代で高くなっている。「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備への支援」は男性の 20～50 歳代で高く、「性別に関係なく家事・育児・介護に参画することについての若い世代や未婚者への普及啓発」は女性の 70 歳代以上で高くなっている。また、「男性の家庭での活躍を促す、経営者・従業員に向けた職場における意識啓発」は男性の 30～40 歳代で高くなっている。

図26 男性の家事・育児・介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思われますか(年次比較)

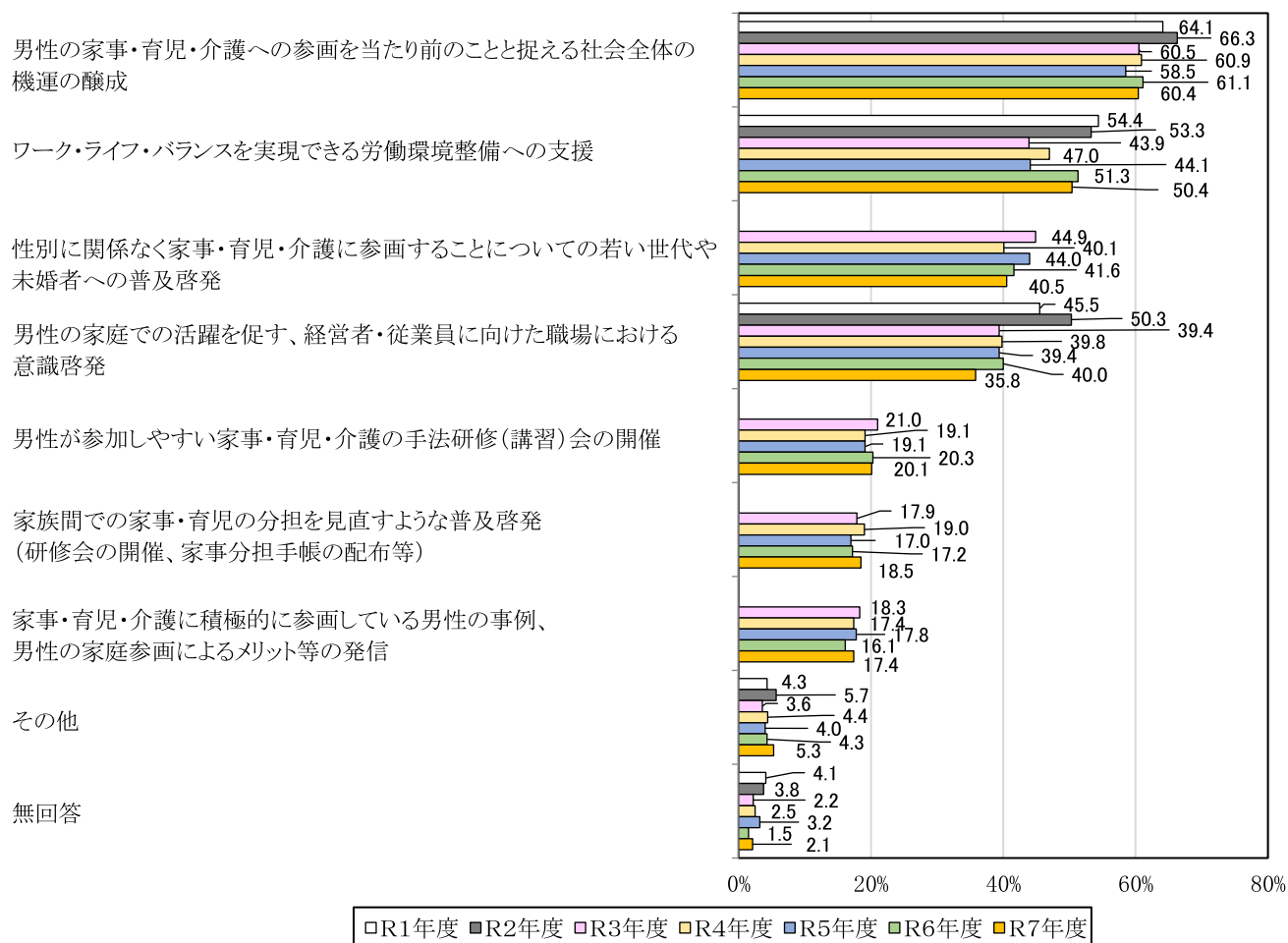
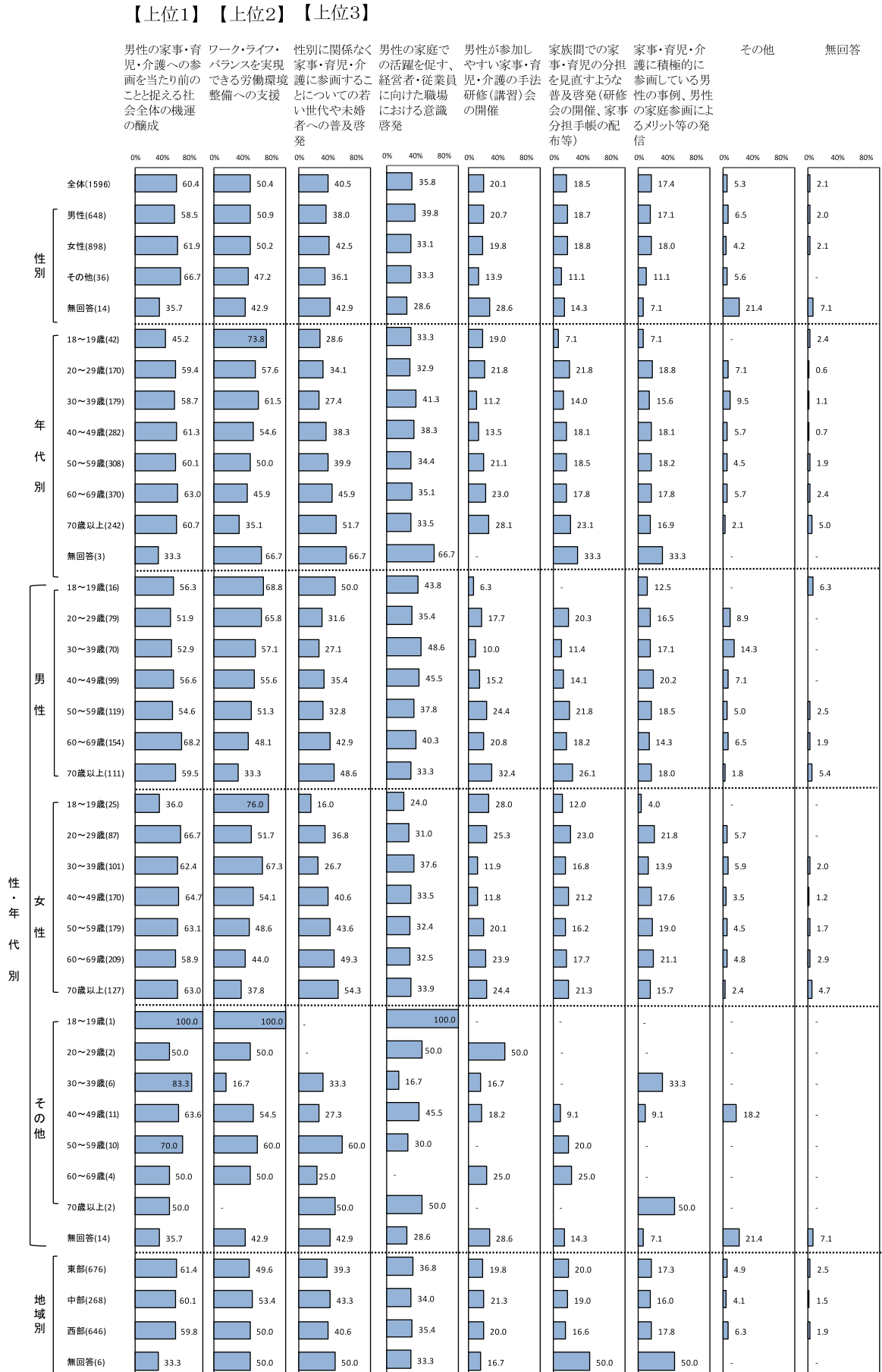


図 27 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策
(性別・年代別・地域別)



問9 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思いませんか。(〇は3つまで)

～「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境整備」や「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」が上位～

男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」が 59.8%と最も高く、次いで「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」が 53.1%、「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」が 40.3%となっている。

令和2年度～7年度を比較してみると、上記の3項目は常に上位を占めており、「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」は前年度から約3ポイント増加している。

性・年代別でみると、「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」は全ての年代で男性より女性が高く、「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」は男性の30歳代、60歳代以上で高くなっている。

図28 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思いませんか(年次比較)

保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備

性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援

子育てや介護等で離職した人の再就職支援

長時間労働の縮減やテレワーク制度の普及など、働き方の見直しの啓発

固定的性別役割分担意識の解消など男女共同参画の視点に立った教育や学習機会等の充実

民間企業・団体などにおいて管理職への女性の登用が進むような取組支援、登用の事例やメリットの発信

男女共同参画に関する相談の場の拡充及び周知

配偶者や交際相手等からの暴力を根絶するための取組推進
(R2～R6: 女性に対する暴力を根絶するための取組推進)

県の審議会委員や管理職など、政策決定の場への女性の積極的な登用

その他

無回答

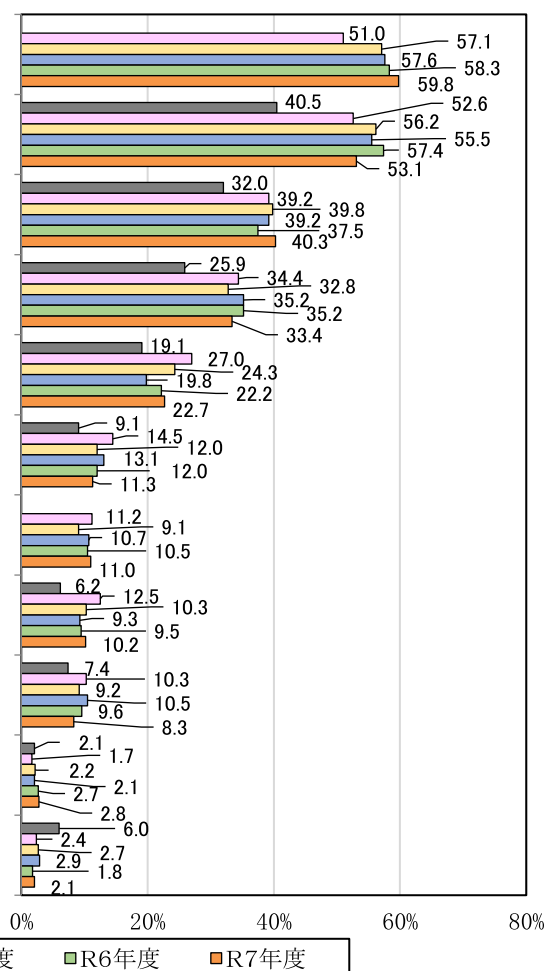


図 29 男女共同参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきこと(性別・年代別・地域別)

